



TITLE:

9.溶液中分子の高速緩和過程 : 時間
分解発光・ホールバーニング分光
(大阪大学大学院理学研究科物理学
専攻,修士論文題目・アブストラク
ト(1989年度))

AUTHOR(S):

村上, 洋

CITATION:

村上, 洋. 9.溶液中分子の高速緩和過程 : 時間分解発光・ホールバーニング分光(大阪大学大学院理学研究科物理学専攻,修士論文題目・アブストラクト(1989年度)). 物性研究 1990, 55(1): 69-69

ISSUE DATE:

1990-10-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/94320>

RIGHT:

9. 溶液中分子の高速緩和過程

—時間分解発光・ホールバーニング分光

村 上 洋

溶液中の分子を室温で光励起すると均一広がりに対応するフェムト秒領域の超高速の緩和を受けた後、媒質の拡散過程に関係したピコ秒程度の遅い緩和を受ける。この遅い緩和過程については媒質の粘性を上げたり温度を下げるなどにより急速に遅くなるので発光やホールバーニングスペクトルの時間的な変化として詳しく調べることができる。今回はアルコール溶媒中の有機色素を対象にして実験を行なった。

ホールバーニング分光にみられる変化は励起状態と基底状態の双方の緩和を反映し、時間分解発光スペクトルは励起状態だけの緩和を反映しているとして理解できる。

10. 分子性結晶中にドーピングされた pentacene からの
発光の不均一広がりと偏光特性

矢 野 稔

分子の発光スペクトル線を広げる原因は均一広がりと不均一広がりとの2つに分けられる。このような、共鳴線の広がりには核磁気共鳴、電子スピン共鳴などでも観測されている。不均一広がりには、気体ではドップラー広がり、固体中の中心では格子欠陥による歪や電場が主な原因となる。ここでは、p-terphenyl結晶中pentacene分子の不均一広がり形状を液体ヘリウム温度で励起スペクトルを観測することにより測定した。その結果、不均一広がり形状はふつう考えられているようなGauss関数型ではなく、裾の方ではLorentz関数型が支配的になっていることがわかった。そこで、その原因を調べるために格子欠陥となるpentaceneの濃度の違ったサンプルや他の不純物をいれたサンプルについて不均一広がり形状をくわしく調べた。

また、p-terphenyl結晶中におけるpentaceneは、01,02,03,04と呼ばれる4つの